

## まえがき

『共同対人援助モデル研究』10号は、二つの研究会の記録により構成されている。

第Ⅰ部は、2013年1月27日に実施された文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業研究成果報告会「自立支援のための持続的対人援助—地域資源としての大学の活用—」（以下、単にプロジェクトという）の内容を掲載している。同研究会では、地域資源としての大学のあり方を対人援助という場面に引き寄せて検討したプロジェクトを展開してきたさまざまな研究チームからの報告をもとに課題と今後の展望が具体的な経験をふまえて議論された。

そのような議論を触発し、また今後の方向を探る手がかりを与えていただいたのが、山崎淳一郎氏（国立大学法人宇都宮大学学術研究部長）による基調講演「地域エコシステムにおける大学の役割」であった。はるばる京都まで足をお運びいただいた山崎さんに改めてこの場を借りてお礼もうしあげたい。

なお、これらの企画は人間科学研究所の年次総会としても位置付けられており、当日午前中にあったポスター発表でも活発な意見交換がなされていたことを付記しておく。

第Ⅱ部は、2012年8月2日に行われた人間科学研究所アーカイビング事業研究会「対人援助に対する情報金庫・アーカイブの活用に向けて」である。この研究会は内部的なものであったが、対人援助に関する情報金庫・アーカイブの活用という新しい取り組みをすすめる中で明らかになってきた課題と今後の展開を検討するうえで重要な内容を含んでおり、本号で内容を公表することとした。

対人援助に関わって個人のいかなる情報をいかに蓄積し、いかに活用するか、そしてそれをプライバシーの侵害に結び付かないような体制のもとでいかに行っていくか、それらはどのような倫理的な位置付けから考えるべきなのか、こうした課題に関連する議論が本号掲載の報告で展開されている。未だ十分検討されていない分野でもあり、ここでの議論が次の議論につながる契機となれば幸いである。

最後に、本プロジェクトの代表を務められ、両研究会でも司会・報告等ご活躍いただいた土田宣明先生にこの場を借りてお礼を申し上げておきます。ま

た、本号編纂に尽力いただいた人間科学事務局の小栗栖裕生さん・難波しのぶさんに感謝いたします。お疲れ様でした。

2013年3月9日

立命館大学  
人間科学研究所所長  
松田 亮三